



社会福祉法人が連携して、地域のニーズに応える

～ほっとかへんネットの取り組みから～

社会福祉法人制度改革に伴い、社会福祉法人の責務として「地域における公益的な取組」が位置付けられた。

兵庫県では、各市町域において「社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）」を組織化し、その専門性や機能を生かした取り組みが進められている。

この特集では、社会福祉法人同士の連携による公益的な取り組みについて、実践事例を通じて考える。



表1 社会福祉法人連絡協議会の設立状況

※平成31年2月末時点

～平成26年度	伊丹市、南あわじ市、神戸市垂水区
平成27年度	丹波市、佐用町、篠山市、神戸市東灘区、神戸市兵庫区、神戸市西区
平成28年度	宝塚市、神戸市灘区、神戸市長田区、神戸市須磨区
平成29年度	神戸市北区、明石市、小野市、三田市、加西市、神戸市中央区
平成30年度	加東市、たつの市、川西市、豊岡市、赤穂市、西脇市

兵庫県では、「ほっとかへん」を合言葉に、市区町域で複数の社会福祉法人が連携することで、地域の生活・福祉課題の解決を図る取り組みを進めている。県内では、社会福祉法人制度改革以前から、兵庫県社会福祉法人経営者協議会（以下、「経営協」）が社会貢献活動の奨励をはじめ、平成26年度から

「ほっとかへんネット」の設立経緯と県内の状況

モデル的に市区町域で社会福祉法人連絡協議会（以下、「ほっとかへんネット」）の組織化を推し進めた。また、県社協は2020年計画の重点的取り組みの1つに「社会福祉法人の地域公益活動の推進」を掲げており、平成28年度以降は、経営協と県社協が協働で設立を支援している。現在、県内25市区町で設立されている（表1）。

そして平成29年度には、ほっとかへんネットの代表者を委員とする「兵庫県社会福祉法人連絡協議会代表者等連絡会」を立ち上げ、各市区町の活動に関する情報共有や、全県的な取り組みの推進方針の検討等を行っている。同連絡会では、各市区町の「活動の見える化」について重点的に検討し、今後、県社協ホームページ等を通じて積極的に発信する予定である。

ほっとかへんネットは、各地域で社会福祉法人の参画数や種別がさまざまに、活動内容は、地域の特性に応じ多岐にわたる。次に一事例として「ほっとかへんネット灘（神戸市灘区）」を紹介する。

事例(兵庫県神戸市灘区)

日頃のつながりを 災害時にも生かす

神戸市灘区では、昭和56年から施設職員が交流する機会があったことから、平成27年にほっとかへんネット灘の設立を準備。複数回

5つの分科会活動の内容

- ① 複合的な相談活動：月1回、小規模デイサービスが閉所している日曜日に開催される居場所(カフェ)を活用して相談窓口を設置。将来、複数の相談窓口を立ち上げる予定。
- ② 災害時の要援護者支援：福祉避難所の勉強会等を開催。
- ③ 地域の公益的な活動：民生委員・児童委員との交流会や講演会を開催。
- ④ 合同研修会：滋賀県の「縁」子どものフリースペース視察等。
- ⑤ PR活動：地図つきのPRチラシを地域や関係機関に配布、地域イベントへの参加等。

の実行委員会を経て、平成29年2月に23法人が参画して設立した。役員会は年度初めに活動方針を決定し、全ての法人から選出されたメンバーで実務者会を設け、5つの分科会活動を展開している。

民生委員・児童委員との交流会は、地域の課題を知るために、地域をよく知る民生委員・児童委員と顔が見える関係を築いていきたいという思いから始まった。交流会では、「居場所」がテーマの映画を見た後、意見交換を行い、法人と民生委員・児童委員と一緒に地域を見守ることが大切であることが確認され、継続して交流の場を持っている。これらの活動を通じて、法人間の職員同士、また、地域の民生委員・児童委員と顔が見える関係づくりが進んできた。

平成30年7月豪雨災害では、篠原台地区が土石流で大きな被害を受けた。約1か月間、避難指示が出されていたが、指示が解除されると、事務局の区社協の調整のもと、側溝の土砂出しや災害ゴミ

を搬出するボランティア活動が行われ、法人職員だけでなく、施設利用者も参加した。さらに、区として各施設や街頭で募金活動を行い、自治会に届けるなど復旧・復興に力を注いだ。これを機に、災害時に社会福祉法人として、ほっとかへんネット灘として地域でどう動くか、職員の意識が高まった。

「今後も、職員一人一人がアンテナとして意識し、地域のニーズに耳を傾け、実践を積み重ね、ネットワークを生かすからこそできる地域貢献活動を展開し、地域との信頼関係を構築していきたい」と橋本賢一代表は語る。



地域のニーズを知り、 応える

ほっとかへんネットの取り組みは、お互いの法人を知ることから始まる。職員同士の顔が見える関係性を土台に、日頃の地域に対する思い、気になる住民への対応方法などを共有することができる。

そして、社協を通じて地域の民生委員・児童委員や自治会役員等から住民のニーズを把握することがとても重要である。社会福祉法人が、地域の一員として地域の課題を知り、住民と共に考え、行動することが地域づくりを推進する。

ほっとかへんネットは、ネットワークを作ることだけが目的ではない。社会福祉法人同士の連携に加え、地域団体やNPO法人、行政等といった多様な機関・団体と一層連携し、地域の課題を解決するセーフティネットとなることが、社会福祉法人の使命を果たし、社会からの信頼に応えることにつながっていく。